

普及活動情勢報告（平成 29 年 8 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

早期の経営安定を目指して個別面談



記帳結果等を見ながら
経営改善を検討

7月20・26日、大豊町地域担い手育成総合支援協議会は、役場で新規就農者の経営改善に関する個別面談を実施しました。

対象者は5戸で、普及所から栽培技術の改善や経費の見直し等について、新規就農支援員から日頃の巡回指導で気付いた点やこれからの栽培について助言しました。

年々、新規就農者の栽培技術は向上しているものの、経営を安定させるには規模拡大が必要であるなど課題を抱えています。

普及所はそうした課題の解決を図るため、引き続き栽培技術の向上や経営改善に向けた支援を行っていきます。

JA土佐れいほく米ナス部会現地検討会でのバンカーシート実証報告



バンカーシートの
育苗時設置状況

7月21日、JA土佐れいほく米ナス部会は、本山町で現地検討会を開催し、11人が参加しました。

普及所は天敵「スワルスキーカブリダニ」を環境等の影響から長期間保護して増殖できる「バンカーシート」の実証経過を報告しました。普及所の報告や天敵の定着状況を確認することで、興味を示した農家もいました。

普及所は、農家の経営安定のため省力化が可能となる技術の確立を支援していきます。

第2回の講座を開催！

～はちきん農業大学嶺北地域講座・新規就農者向け農業基礎講座～



農薬の安全使用について
熱弁する普及員

7月24日、普及所で「はちきん農業大学嶺北地域講座」と新規就農者向け「農業基礎講座」を併せて開催し、9人（女性受講者4人、新規就農者5人）が出席しました。

大塚製薬(株)の講師による「熱中症のメカニズムと対策について」の講座では、熱中症の判断の目安や対応策等について、また普及指導員による「農薬の安全使用について」の講座では、夏期の病害虫防除対策や除草剤の使用方法等について質問が集中しました。いずれの講座も出席者から資料、説明ともに分かりやすかったという声が多くありました。

今後も普及所は、講座を企画・開催し、女性農業者や新規就農者のスキルアップを支援していきます。

JA土佐れいほく大豊支部園芸推進会で土づくり等を学ぶ



土づくりの大切さを学ぶ

7月29日、JA土佐れいほく大豊支部で園芸推進会を開催し、生産者15人、町職員1人、JA職員1人、普及所1人が参加しました。

夏秋栽培の雨よけハウスでは肥料が蓄積し、土壌病害虫の発生が問題となっています。大豊町では法面の草を堆積し、ほ場に投入してきましたが、高齢化とも相まって作業が困難となっています。

そこで、普及所から厳寒期でも実施できる土壌還元消毒や緑肥の栽培などを紹介しました。

参加者からは、「土壌還元消毒の効果は高い」「半身萎凋病が発生する原因が理解できた」などの声が聞かれました。

普及所では講演内容を事前にJAと打ち合わせ、土づくりとISOからGAPへの移行に向けて労働安全を喚起する内容としましたが、今後も有益な情報を提供します。

露地ショウガの収量向上に向け、現地検討会を開催



生育状況を確認する部会員

7月31日、JA土佐れいほく生姜部会は、土佐町で現地検討会を開催し、農家6人が参加しました。参加者のほ場を巡回し、本年の生育状況を確認するとともに、今後の栽培管理について情報共有しました。

普及所は今後の施肥や病害虫防除等について情報提供し、栽培管理の徹底を呼びかけました。

農家からは、「種塊茎の充実度が低かったことや定植後の乾燥で生育が悪い所も見られるが、今後栽培管理を徹底し、収量向上につなげたい」等の声がありました。

普及所では、今後開催予定の先進地視察等組織活動を支援し、各農家の生産安定に向けて支援します。

「水稻採種ほ」審査研修を開催



審査上の注意点などを熱心に勉強

8月1日、普及所で「水稻採種ほ」の審査研修を開催し、普及所、JA職員16人が参加しました。

普及所は、水稻採種に関する法令、ほ場審査の手順及び注意点等を説明しました。

参加者からは、「密粒(突然変異)株とはどのようなものか」「線虫心枯病の特徴は何か」などの質問がありました。

嶺北地域は、県内で使用する種子の約6割(面積比)を生産する主要な産地です。今後、関係機関が一丸となって厳正に審査し、優良種子の生産を支援していきます。

効果的なコミュニケーションのとり方とチーム活動について学ぶ ～職場研修会開催～



自分の対応が変われば
相手も変わる

8月1日、効果的にコミュニケーションをとりながら課題や目標を共有し、普及指導活動を行うための心構えや手法を学ぶことを目的に、普及所、中央東農業振興センターの職員16人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

高知大学の是永准教授を講師に迎え、「空気が読めない」「人とつながれない人」に対する支援や指導のあり方、タイプ別のコミュニケーションのとり方等について学びました。

職員からは、「職場には障害のある人がいるという前提で対応を考えるようにする」等の意見がありました。

今後は、色々な困り感のある人に対して、適切なコミュニケーションをとりながらチームで仕事（普及指導活動）を進めていきます。

水稻優良種子生産に向けたほ場審査を実施



ほ場内で変種の混入が
無いか確認

8月8日、普及所、JA、環境農業推進課、農業技術センターの職員8人が、土佐町田井採種組合の早期品種（コシヒカリ）のほ場（2戸、214a、12ほ場）を審査しました。

前日の台風5号によって、一部で倒伏が見られましたが、種子生産者の努力によって病害虫の発生も無く、全てのほ場が合格となりました。

今後、普及所は適期刈取りなど、優良種子の生産に向けて指導していきます。

「伊勢川営農組合」のウメ、チョロギで地域を盛り上げていきます！ ～推進委員会を開催～



活動計画を検討する組合員

8月9日、土佐町の集落営農組織「伊勢川営農組合」は、集会所で推進委員会を開催しました。組合員8人、JA・役場・普及所各1人が参加し、上半期の農作業受託実績や営農組合で取り組んでいるウメやチョロギの協業栽培や加工状況等について話し合いました。

「伊勢川営農組合」の梅漬けやチョロギは町内外でおいしいと喜ばれていますが、今年度も順調に栽培と加工が進んでいます。

下半期の11～12月には、チョロギやウメを活用した交流活動を開催することが決まりました。伊勢川の美しい棚田の景観と農業の魅力を感じてもらえる交流会を目指し、地区会とも協力しながら営農組合を挙げて準備を進めることになりました。

普及所はこれからも、土佐町、JA土佐れいほくと連携し、交流活動と組織活動の活性化を支援します。

安心・安全な農業をめざそう ～ISO環境点検～



点検項目を農家と確認

8月9・10日に、JA土佐れいほく園芸部は全部会員100人を巡回してISO14001に基づく「れいほく版ISO」の環境点検を実施しました。普及所は関係機関、園芸部役員5人で廃棄物や農薬の管理等が適切に行われているか確認し、改善点があれば指導しました。点検の結果、どの部会員もほとんどの項目を実践しており、「れいほく版ISO」が定着していること分かりました。

園芸部は「れいほく版ISO」を進化させて、県版GAPに移行する予定です。

今後、普及所は園芸部での農産物や農作業等の安全性を高める取組を支援していきます。